適応指導教室の現状について

令和５年１２月２２日現在

１　通級者数

（単位　人）

教　　室	小２	小３	小４	小５	小６	中１	中２	中３	計
横須賀	１ （１）	１ （１）	２ （０）	１ （０）	１ （０）	９ （６）	１９ （３）	９ （１）	４３ (12)
上野公民館	１ （０）	１ （０）	１ （０）	１ （０）	３ （０）	７ （１）	６ （４）	１２ （１）	３２ （６）
計	２ (1)	２ (1)	３ （０）	２ （０）	４ （０）	１６ （５）	２６ （６）	２１ （２）	７５ (18)

※（　）は体験入級生

２　卒業生の進路予定

【横須賀教室】

・愛知県立横須賀高等学校（夜間定時制）
・名古屋市立中央高等学校（昼間定時制）
・愛知産業大学工業高等学校(通信制課程単位制)
・飛鳥未来高等学校（通信制課程単位制）
・飛鳥未来きずな高等学校（通信制課程単位制）
・飛鳥未来きぼう高等学校（通信制課程単位制）

【上野公民館教室】

・愛知県立横須賀高等学校（夜間定時制）
・名古屋市立中央高等学校（昼間定時制）
・愛知県立刈谷東高等学校（通信制課程）
・飛鳥未来高等学校（通信制課程単位制）
・飛鳥未来きぼう高等学校（通信制課程単位制）
・N 高等学校（通信制課程単位制）
・総合学園ヒューマンアカデミー（通信制課程単位制）
・ルネサンス高校（通信制課程単位制）
・愛知芸術高等専修学校

３　進路への対応

・「子どもの自立と未来を語る会」への出席を、中学生だけではなく、小学生高学年の保護者にも勧めている。
・適応指導教室（ほっと東海）でも個人懇談を行い、生徒の実態や保護者の願いを学校へ伝えるなど、学校と情報共有し、連携を図りながら支援を進めている。また、進路を考える上での参考になる冊子を渡している。
・受験に向けて、進路指導は学校中心であるが、適応指導教室でもできることを考えて取り組んでいる。個々の特性を生かすことができる進路先の相談にのってい

る。また、興味がありそうな高校の資料を一緒に見ながら見通しがもてるようにしている。
・昨年度より入試の時期が早くなったため、３年生の生徒に対しては早めに対応し、学習支援だけでなく、作文や面接練習なども必要に応じて行っている。
・卒業生の訪問があったときには、高校生活や経験談を聞き、自分の進路の参考にできるようにする。

４　通級状況

・入級者数は年々多くなってきている。特に小学生の入級者も増えている。
午前中のみや本人の体調に合わせて通級しているため、午後からの通級もある。
また、生活リズムの乱れにより、遅刻をする通級生がいる。その一方で、本人の状態を考慮し、話し合う中で少しずつ回数や時間が増えてきている通級生もいる。
・学習に対して、まじめに取り組んでいる。ただ、自習より学習支援を希望する通級生も多く、支援する時間が短くなってしまうこともある。
・コミュニケーションタイム等で関わり合う時間を作ることで、良好な交流ができるようになってきた。また、関りを楽しみに来級する通級生が多くなってきた。
・芸術劇場での名フィルのリハーサルや「出会いの教室」、農務課からの「みかん狩り」、ほっとプラザの「干支作り」「カードゲーム」、横須賀図書館によるブックトーク、ケアラーズカフェのイベント、ボランティアによる習字教室など、多くの関係機関や施設の協力により参加できる体験活動の機会が増えた。
・大人数が苦手で、学習コーナーで学習できない通級生が、別室を希望することも多くなっている。
・分離不安で保護者同伴での通級をする児童や摂食に問題を抱えていて昼食や会食ができない通級生が増えてきた。
・通級時の消毒、マスクの着用、手洗いや使った机等の消毒、距離をとるなど、インフルエンザ等の感染拡大防止の徹底を心掛けている。

５　学校との連携

・１週間の通級生の様子を文章で各学校にメール等で報告し、様子を理解してもらっている。特に新しく来級した通級生については、必要に応じて電話連絡をして、様子を伝えている。
・在籍校の学校行事・テストには、努めて参加・受験するように働きかけている。
・在籍校の先生方が「ほっと東海」に訪問された時に様子を見ていただいたり、情報交換をしたりしている。
・相談員が学校に出向き、生徒について懇談する機会を作った。

６　課　題

・生活の乱れから通級できない通級生が多く、家庭教育への支援の難しさがある。
・児童生徒のみならず、保護者も学校復帰に消極的な家庭が多い。
・個々に抱える要因が異なるため、集団への適応を段階的に考えて対応していく必

要がある。
・発達障がいやその疑いがある通級生もおり、人数が多いとその対応に苦慮している。また、小学生が多いと、中学生に支援が行き届かないこともある。
・在室時間、学習時間が短い通級生に対して、今後どのように支援をしていくとよいのか対応を考えていく必要がある。
・担任と直接連絡し合う時間の確保が難しい。通級生の支援の在り方について担任と相談する時間の確保が必要である。
・通級生の学年差（年齢差）が大きくなったり集団が苦手な通級生が多くなったりして一様には支援できず、個々に十分な対応することが難しくなってきた。